

9 自分の国について話す

POINT 1 わかりやすい発表をするために、どんな準備が必要ですか。



POINT 1 のねらいは、発表をわかりやすくするための発表の構成とポスターの作り方について学習者に考えてもらうことです。

① 発表のアウトラインを考えましょう。

わかりやすい発表をするために、何をどんな順番で言ったらいいと思いますか。

- ここでは、発表の最初と終わりの挨拶などを除いた、発表のメイン部分をわかりやすくするための構成を学習者に考えてもらいます。
- 各自 p.172 の記入欄にラフなアイデアを書いてもらい、それについて学習者同士フィードバックしてもらってもいいでしょう。
- 例えば、次のような点に学習者が気づけるといいでしょう。
 - * 発表の冒頭で、これから何をどんな順番で発表するのか言ったり（まず、〇〇についてお話しします。次に、××について、最後に、△△についてお話しします。）、発表の終わりでも同様にどんな順番で何を述べたのかまとめたりするとわかりやすい。
 - * 時系列に並んだ要素は古いものから新しいもの、またはその逆に話すとわかりやすい。
 - * PART 3「私のクラスのインターアクション」の聴衆がどんな人たちなのかによって、追加説明が必要になる場合もあり得る。

例) イスラム教の断食について発表する際、小学生相手ならイスラム教や断食自体を知らない可能性があり、その説明が必要になる。しかし、大人相手の場合、断食自体の説明は不要。

練習1 『発表のアウトライン』を作りましょう。

- 本課の 練習1 は練習というより、PART 3「私のクラスのインターアクション」で行う発表準備という位置づけです。
- 付属 CD-ROM 収録の『発表のアウトライン』に必要事項を書かせます。
- 以下に『発表のアウトライン』作成の指導をする際の注意点を記しておきます。
 - * 発表の最初でする質問、締め言葉は『発表アウトライン』には書かずに、別の『じゅんぴシート』に書く。

また、聴衆に発表の途中でする質問も『発表のアウトライン』右下部に記入欄がありますが、練習1 の時点では書かないでおきます。学習者にもそのことをしっかりと周知します。
 - * 聴衆を意識した内容選び

聴衆＝インターアクションの相手は場面の一要素です。「インターアクションは場面の認識から始まる」（教科書 p. v 参照）という観点からは、学習者に聴衆がどんな人たちなのか、その聴衆に興味を持ってもらえるかを意識して発表の内容を考えてもらいたいものです。
 - * 読み上げ原稿は用意しない

読み上げ原稿の使用を許可すると、学習者は聴衆の反応を見ながらのやり取りをしなくなる恐れが

あります。原稿が使えないことに不安を訴える学習者がいたら、①一方的に話すことがこの活動の目標ではないこと、②「完璧な」日本語は求めていないこと、③途中で言葉を忘れていたりしたら聴衆に聞いてしまえばいいこと、そのための練習も PART 2 **POINT 4** で行うことなどを学習者に伝えるといいでしょう。どうしても何か見ながらでないと言葉ができないという学習者がいたら、キーワードやキーフレーズを箇条書きしたカードを使うように指示するといいでしょう。

***『発表アウトライン』は極力文で書かない**

『発表アウトライン』は発表の構成を練るために作るものであり、読み上げ原稿や台本の代わりではないことを学習者に伝えます。アウトラインにはキーワード、キーフレーズのみを発表の順番に沿って書くようにし、極力文で書かないように指示するといいでしょう。

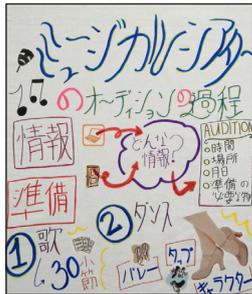
***学習者の説明は5分程度が無難**

初級後半から中級前半の学習者にとって、原稿を使わないで無理なく発表ができる長さ、および、聴衆とのやり取りの時間を考えると、発表部分（聴衆とのやり取りを除く）は5分程度に抑えたほうが無難かと思われます。

2 **A** と **B** の発表用ポスターは、どちらのほうが内容がわかりやすいと思いますか。それはどうしてですか。

*この部分は、ポスター発表をしない場合は省略して構いません。

A



B



- ここでは、ポスター発表でのポスターの役割についての学習者の気づきを促し、効果的なポスターの条件について考えてもらいます。
- A** と **B** のポスターを比較した場合、**B** のポスターのほうが、シンプルでも情報が整理されて示されていてわかりやすいポスターと言えるでしょう。
- 他に、**A** の問題点として、次のような点が挙げられるでしょう。
 - *デザインは斬新で奇抜だが、情報が整理されておらず、見づらい。
 - *色や写真などのビジュアル面に気を取られたり、情報を探したりして、聴衆が学習者の説明を集中して聞けなくなる恐れがある。
- このポスター発表では聴衆にわかりやすい説明を行うことのほうが、ポスターのデザイン性や美しさよりも重要であることを学習者に十分理解してもらう必要があるでしょう。
- アウトラインに詳しい情報を詰め込みすぎたり、発表のポイントや流れが明確になっていない場合にもポスターが雑然としてしまうことがあります。発表アウトラインはポスター作成に入る前に提出してもらい、わかりにくい部分は修正を促すとよいでしょう。
- その他、ポスター作成時には以下のような点に注意するよう学習者にアドバイスするといいでしょう。

***ポスターの文字量は極力減らす=極力、文は書かない**

これは、聴衆が学習者の口頭での説明に集中しやすくするためと、学習者がポスターを読み上げ原稿の代わりに使うことを避けるためです。文字量を減らすために、必要に応じて、体言止めのかた（例：「勉強する」→「勉強」）などを学習者に紹介してもいいかもしれません。

*聴衆が見やすいよう、文字の大きさや色に注意する

聴衆との距離が近いポスター発表であっても、ある程度文字が大きくなければポスターが見にくくなってしまいます。また、用紙の色と文字色とのコントラストにも気をつけるよう注意喚起したほうがいいでしょう。

POINT 2 聴衆と打ち解けるために、発表の最初に何をしたらいいですか。

POINT 2 のねらいは、聴衆があとで質問しやすいよう、発表の最初でアイスブレイキングをしておくことの重要性に気づいてもらうことです。

- アイスブレイキングの重要性に対する学習者の気づきを促す具体的な活動としては、再度 **POINT 1** の会話 A、B の出だしの部分を聞いたり、p. 170 の〔会話 A〕と p. 173 の〔会話例〕の出だし部分のスク립トを比較したりした上で、自分が聴衆なら、どちらの発表者に質問がしやすいと思うか答えてもらうなどの方法が考えられます。
- 教科書では発表のテーマについての簡単なクイズをすることを勧めています。それ以外のアイスブレイキングの方法について、学習者にアイデアを出してもらい、クラスで共有してもいいでしょう。

練習 2 あなたの発表の初めにするクイズを作りましょう。

- ③④のように、他のクラスメートとのグループワークを行い、学習者が自分の作ったクイズが効果的であるか客観的に把握できるようにします。
- 参考までに、学習者が作った質問にしばしば見られる問題点を 2 点ほど挙げておきます。学習者同士のフィードバックで以下のような問題点に気づかない場合は、教師が指摘してあげるとよいかもしれません。

*初めて提示する情報を既知のことのように扱ってしまう

例)「今日はインドネシアのプアサについてお話しします。インドネシアでは、いつプアサをしますか。」(⇒初めて聞く人には「プアサ」が何かわからない。)

*漠然としすぎていて答えにくい質問を作ってしまう (⇒ **POINT 3** 参照)

例)「プアサのときは昼間、食べたり飲んだりしてはいけません。どうですか。」

POINT 3 聴衆とやり取りしながら発表するために、どうしたらいいですか。

POINT 3 のねらいは、発表中、聴衆が発表者である学習者に話しかけやすくする方法を学習者に考えてもらうことです。

1 あなたの話に興味を持ってもらうために質問する

メーリンが台湾の旧正月の大晦日について説明しています。a～c の中で、どの質問がいいですか。それはどうしてですか。クラスメートと話しあいましょう。

答え：a、b は答えやすく、いい質問。

c は漠然としすぎており、答えにくい質問。

- ここでのねらいは聴衆にとって答えやすい質問と答えにくい質問があることに学習者の注意を向けることです。
- 学習者が c の問題点になかなか気づかない場合は、自分が c の質問をされたらどう答えるかなどと聞き、気づきを促すといいでしょう。

練習 3 質問をしながら発表する練習をしましょう。

例は省略。

2 聴衆に同意を求める

ここでは聴衆が話しかけやすくするために、同意を求める表現が使えることへの学習者の気づきを促します。また、同意を求める表現とそうでない表現の違い（表現形式、機能）に学習者の注意を向けます。

あなたの言ったことについて、聴衆の同意を求めてみましょう。次の例の a と b のどちらを使いますか。

答え：例 1) 例 2) とともに a を使う。

- 例 1)、例 2) とともに、b は同意を求める表現になっていません。次のような点を説明するといいいでしょう。
 - 例 1) b は聴衆の注意を喚起しているだけである。
 - 例 2) b は単に聴衆に質問しているだけである。
- 使い慣れていないためか、実際の発表では同意を求める表現を使わない学習者が多いのも事実です。実際の発表では同意を求める表現を積極的に使ってみることを勧めてみるといいいかもしれません。

練習 4 聴衆に同意を求める練習をしましょう。

例) 「台湾では、お年玉は結婚している人がまだ結婚していない人にあげます。だから、大学生でもお年玉をもらえます。おもしろいと思いませんか。」

自分の発表で実際に使う語句など、教科書 p. 175 に挙げられていない言葉も使って同意を求める練習をするといいいでしょう。

3 やわらかい表現を使う

- ここでは、学習者が以下の 2 点について気づいてくれることを目指します。必要に応じて解説をするといいいと思います。
 - * 本人にはそのつもりはなくても、表現によっては、きつく聞こえてしまうことがあること
 - * やわらかい表現を使うことで印象をよくし（または、少なくとも悪くしない）、聴衆とのよい関係を築きやすくなること

a と b のどちらのほうが印象がよいと思えますか。

答え：b

- a. では「飲みません」（否定形）や「嫌い」（否定的な内容を言い切っている）を使っている点、「～から」で理由を述べている点が、きつい印象を与えてしまう恐れがあります。
- [表現例] には「あまり／そんなに／ちょっと」などの程度の副詞と「～んです」を使ったやわらかい言い方の例が挙げてあります。これ以外にも必要に応じて、学習者の質問に答えたりしながら、やわらかい（または、きつくない）表現を追加してください。

練習5 表現をやわらかくする練習をしましょう。

- カードを使って、ゲーム形式で表現をやわらかくする練習をします。
- 次ページのカードをプリントアウトしてお使いください。

〔手順〕

- ①次ページに掲載したカードを学生のペアやグループの数だけコピーする。
- ②カードを点線で切って、学生のペア／グループの数と同じ組数を作る。（白紙カードには、そのクラスの学習者が普段言っていて、言い方がきついと感じる表現を書く。）
- ③学習者のペア／グループにカードを配り、机の上に文字が書かれた面を裏にして並べるように指示する。
- ④順番に1枚ずつ、カードを選んで裏返し、カードに書かれた表現をやわらかい言い方と言うように指示する。5秒経ってもうまく言えなかったら、カードを裏返して戻す。
- ⑤カードがなくなるまで、④を繰り返す。

*様子を見て多くの学習者がうまく言えないフレーズなどがあれば、適宜、ゲームを中断し、クラス全体にフィードバックを与えたり、復唱練習をしたりするとよい。

練習6 表現をやわらかくする練習をしましょう。

例) 起きるのがあまり得意じゃありません。それに、実は、私はあまり料理が好きじゃないんです。だから、お弁当のおかずは、いつも簡単なものを作ります。

第9課 **POINT 2** 練習5 カード

にちようび ^い
日曜日は行けません。

なっとう ^{きら}
納豆は嫌いです。

テレビは ^み見ません。

にく ^た
肉は食べられません。
ベジタリアンですから。

コーヒーは ^の飲みません。

^し
知りません。

わかりません。

^{さしみ}
刺身は
^す
好きじゃないんです。

にほん ^{えいが}
日本で映画を
^み ^い
見に行きません。
^{たか}
高いですから。

^{うんどう}
運動はしません。
^{じかん}
時間がないですから。

いそが
忙しくないです。

かんじ か
漢字が書けません。

POINT 4 言いたいことが日本語で言えないとき、どうしたらいいですか。

POINT 4 のねらいは、学習者が言葉を忘れてしまったり、日本語で何と言うかわからなかったときに、どう対処すればよいのか考えてもらうことです。また、聴衆に働きかけて問題を解決できるということへの学習者の気づきも促します。

発表しているとき、言葉を忘れてしまいました。どう言いますか。

例) 「Lucky draw は日本語で何ですか。」

- ここでは、自分が発表の途中で言葉を忘れてしまったときにどう言うか学習者に考えてもらい、p. 177の吹き出しの中に書いてもらいます。本当に学習者がわからないのか、自分の答えに自信がないだけなのか教師が把握できるように、何と言うかわからない場合も白紙にせず、わからない旨を書いてもらうといいでしょう。

1 日本語の表現を聞く

- ここでは、忘れてしまった日本語の言葉を単刀直入に聞く方法をコミュニケーション・ストラテジーとして紹介しています。

練習7 日本語で言いたいことが言えないとき聴衆に助けを求める練習をしましょう。

- 準備として、難しい／覚えにくい言葉を p. 178 の記入欄に書いてもらいます。さらに、その言葉について、教師、クラスメートがわかる言語での訳をつけてもらいます。
- 「ええと、」「あのう、」のフィラー部分で困った感じを出すようアドバイスするといいでしょう。

2 最後まで言わないようにする

- ここでは、日本語の会話の特徴とも言われる「共話」の特徴を活用して、聴衆から忘れてしまった、もしくは知らない日本語の言葉を引き出すコミュニケーション・ストラテジーを紹介しています。より具体的には、忘れてしまった部分、または、日本語で何と言うかわからない部分を言いさして、聴衆に助けてもらうことを促すというものです。なお、「共話」とはあいづちを打ったり、相手の発話の先取りをしたり、内容を確認する質問をしたりしながら、会話参加者が協力しながら会話を作り上げていく話し方のことです。
- ここで共話の特徴を活用したコミュニケーション・ストラテジーを紹介しているのは、学習者に察する文化に基づく日本語のインターアクションのメリットに気づき、その点を十分活用してもらおう（教科書 p. vi 参照）という意図があります。
- 教科書 p. 179 の<コツ>で、名詞を忘れたときは **1** の方法で、文末の動詞や形容詞には **2** の言いさしを使うといいとしています。もちろん、名詞以外の語にも **1** は使え、文末の動詞や形容詞以外にも **2** は使えます。あえて<コツ>のような説明を提示している理由は以下のとおりです。**2** の言いさしを使った場合、聴衆は活用形などの文法的な要素も含めて学習者が言いさした部分を補ってくれるでしょう。その際、学習者は文法を気にせず聴衆が補ってくれた部分をそのとおりに繰り返せば発表が進められ

ます。一方、概念を表し、活用しない名詞などは、発話の途中で言いさすよりもあらかじめ ① のように日本語訳を尋ねてしまうほうが効果的でしょう。

練習8 最後まで言わないようにする練習をしましょう。

- この練習は、シャドーイングの手法を取り入れた練習です。3つの短いダイアログで、メーリンが言いさしをする部分をCDの音声に合わせて練習します。

[手順の例]

- ①まず、音声だけを聞かせる。もしくは、教科書 p. 179 のメーリンの台詞部分を見ながら、音声を聞かせる。その際、言いさし部分の音声の特徴に注意して聞くように指示する。この段階でシャドーイングはしなくてもいい。
- ②教科書 p. 179 のメーリンの台詞部分を見ながら、CDの音声をまねる。その際、できるだけ忠実にCDの音声をまねるように言う。これをある程度すらすら言えるようになるまで繰り返す。
- ③最後に教科書を見ないでCDを聞きながら、音声をまねる。

POINT 5 印象よく発表を終えるために、どうしたらいいですか。



POINT 5 のねらいは、好印象の効果的な発表の終わり方を考えてもらうことにあります。

- 締め言葉と言って発表を終えた場合と、締め言葉を言わずに発表を終えた場合、どんな印象の違いがあるか、学習者同士で話しあって意見を出してもらうといいでしょう。
- ここでは聴衆の興味をさらに深めたり、今後も関係が継続する可能性を示唆する内容の締め言葉を紹介していますが、他にどんな内容の締め言葉が効果的か、学習者にアイデアを出してもらうといいでしょう。

練習9 発表の終わりの表現を考えましょう。

[表現例] 「ぜひ、旧正月に台湾に行ってみてください。」

「私も日本のお正月について知りたいです。今度、教えてください。」

- 上記のように何らかの形で聴衆との関係が維持または深められるような終わりの表現を各学習者に考えてもらい、『じゅんぴシート』の ⑤ に書いてもらいます。
- ただし、聴衆との今後の交流を望まない学習者がいた場合は、無理に関係の継続を望む言葉を書いても必要はありません。その場合、「ぜひ、旧正月に台湾に行ってみてください」「台湾の文化に興味をもってもらえると、うれしいです」のように、関係の継続を含意しない締め言葉を使うように促すといいでしょう。